

紹介コーナー 当科の心身医療

都立駒込病院神経科心身医療外来

都立駒込病院神経科心身医療外来非常勤医 毛塚満男

心身医療 (1998年6月号) 別刷

PSYCHOSOMATIC THERAPY Vol.10, No.6, 128-130 (1998)

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3丁目1番1号
高橋セーフビル 電話03(3265)7681 (代)

(株) 医薬ジャーナル社

〒541-0046 大阪市中央区平野町3丁目2番8号
甘糟ビル 電話06(202)7280 (代)

～当科の心身医療～

都立駒込病院神経科心身医療外来*

都立駒込病院心身医療科は、昭和50年4月に新院長に就任された故松永藤雄先生(日本心身医学会名誉会員)が、理想的な高度医療の実現には心身両面からのアプローチが欠かせないとの考えから、御自身で始められた専門外来が起源である。

しかし、都立駒込病院の院長業務と専門外来の兼務が時間的に難しくなり、九州大学心療内科の池見西次郎教授に専門医の派遣を依頼され、昭和51年2月に河野友信先生が医長として赴任された。

河野友信先生は、松永藤雄先生の慈愛に満ちた御支援の下に活発に活動され、受診希望の患者さんが急速に増加していった。

そこで松永先生は、当科を総合病院における心身症専門の病棟を持つ診療科としてさらに充実させるために、東大心療内科の故石川 中教授に医員の継続的派遣を要請された。直ちに石川先生は、当時医局長だった筆者に、医局として全面的に支援するように命じられた。

心身症専門の入院ベットは医局にとり熱望していたものだったので、昭和56年5月に筆者が赴任し、心身症専門病棟の開設の準備に取り組むことになった。

それまで筆者は従来から精神分析的精神療法を主たる治療手段としてきたので、米国メニングガー病院の治療構造をモデルとして、できるだけそれに近づけようと努めた次第である。

幸いその努力は院内から高い評価を受け、昭和61年9月には非常勤医員の2名増員と、入院ベット数の倍増が可能となった。

その後もスタッフの活躍の結果、総合病院の心療内科として、摂食障害を中心とした心身症の入院チーム治療で全国でもトップレベルの成果をあげ、学会でも指導的地位を築きあげた。

特に入院チーム治療では、ナース、心理士、ケース・ワーカーとの合同カンファレンスが毎週開かれ、摂食障害の家族療法や親の会などのグループ療法も既に並行して行われていた。

また昭和60年4月より日本心身医学会の研修病院に指定され、2年間の研修カリキュラムを整備した。このシステムは新入医局員の研修や、東大や全国の医学生の見学等のために多少なりとも寄与することができたようである。

この10年間に当科での研修で研鑽を重ねて巣立っていった非常勤医師は、井出雅弘、松波聖治、木村和正、竹内香織、津久井要、林 晴男、長峯清秀、藤波 明、赤松えり子(研修順)の9名の方々である。どの先生方も、転出後それ



都立駒込病院神経科心身医療外来のスタッフ
後列左より、
前列左より筆者、

それぞれの職場で大いに活躍され、学会発表も盛んにされていることは喜ばしい限りである。

しかし平成3年ごろより不況が進行し始め、都の財政事情も次第に余裕がなくなっていく。このような背景の中で、平成4年6月に、河野友信院長が聖路加国際病院(心療内科)に転出された。残念ながら病院経営上の理由から、欠員は補充されなかった。

さらに悪いことに、平成7年の初めには、採算上の理由から当科の廃止の計画案が呈示された。幸い当科の存続を強く求める患者さん達が、一致団結し3000名を越える署名を集め、衛生局と病院当局に計画の撤回を迫った。結果的には、院長と医学会議の代表と筆者が話し合い、当科は神経科の中に統合され、「心身医療外来」として存続し、筆者が神経科の科長として運営に当たることになった。

その後筆者が退職してからは、後任に 大学精神神経科から、
が就任され、非常勤の とともに厳しい条件の中で
神経科一般の診療と痛やエイズ患者の精神面のケアに活躍されている。

心身症医療外来は、俵理英子先生と と筆者の3名の非常勤医師
で、現在運営されている。

また心理部門では、萩谷克子先生(現在産休中、村上公子先生と谷安見子先生が代行中)と吉野美代先生が、癌やエイズの患者さんのターミナル・ケアや慢性難治性疾患患者さんの心理面のサポートに貢献されている。

ところで心身医療科や神経科や心理部門は、すでに大変な嵐の中に入った感のある<こころの時代>を無事に乗り切るための最大の援助者の一人であると思う。

<こころ>をあまりに軽視し、経済を優先させてきた50年に、国民は強い疑問を感じ始めている。人々は急速に高齢化し、疲れ果て、自信を失いつつあり、見捨てられることを皆非常に恐れている。

少なくとも心身医療に携わる者には、このような問題に真剣に取り組む使命が義務づけられていると思わざるをえない。

なお松永藤雄先生は、平成9年10月11日に永眠された。先生は都立駒込病院心身医療科の生みの親であり、育ての親であった。常に我々にあたたかい理解と励ましを与えて下さったことに感謝し、心からご冥福をお祈りする次第である。

(文責 毛塚満男)

*〒 113-0021 東京都文京区本駒込 3-18-22

☎ 03-3823-2101